

令和 8 年 7 月

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立本田小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立本田小学校	https://edu-mizuho.com/honden/page-6867/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立本田小学校	https://edu-mizuho.com/honden/20241213_4624/	https://edu-mizuho.com/honden/20241213_4624/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒

計画通り実施できている

☐

一部、計画通り実施できていない

☐

ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒

実施している

☐

実施していない

<特記事項>

HP にて、特別の教育課程特例校の概要や、実施する理由について公表している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本田小では、瑞穂市内の現状と同様に、年々外国籍児童が増加してきている。このような中で、文化や言語の違いを乗り越えて、どの児童もグローバルな視野をもち、楽しい学校生活を送ることができるように、互いを尊重し合うことが求められている。

そこでコミュニケーションツールである英語を、1・2年生の早い段階で導入することで、互いの良さを受け入れる人間関係が自然に生まれつつある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、1・2年生から英語に慣れ親しむことで、3年生の英語の学習への接続がスムーズであった。また、学習した単語を積極的に使ったり、センテンスを使用して仲間とコミュニケーションを図ったりできた。

ただ個人差があり、自分の思いや考えを英語で表現することへの抵抗感があり、自信を付けさせることが課題である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

上記の課題を踏まえ、児童の実態を把握し、職員研修を行うことが必要と考えられる。授業の公開を基本として、より子ども達が積極的に英語に親しむことができるような授業改善を行っていきたい。またスモールトークも英語の授業だけでなく、日常生活にも取り入れていきたい。